

専門家と連携した防災出前授業

講師	大島商船高等専門学校 准教授 幸田 三広 先生 准教授 浦上 美佐子 先生
実施校	柳井市立大島中学校 全校生徒（67人）
日時	平成25年6月20日（木）13時40分～15時00分

1. ねらい

防災の専門家の指導により、地震や土砂災害発生の現状とその原因等に関する理解を深め、防災意識の高揚を図る。

2. 内容

- (1) 避難訓練 13:40～14:00（20分）
- (2) 津波のしくみ、防災・緊急避難時の対応等の講話 14:00～15:00（60分）

3. 授業の様子

(1) 避難訓練

<想定>

- 東南海沖で地震が発生（緊急地震速報）
- 揺れがおさまるも、校内で火災が発生
- 停電なし・校舎の大きな被害なし
- 生徒の負傷者2名あり、生徒の安全を第一に避難行動を開始



① 13:50 緊急地震速報→ただちに机下へ



② 13:52 地震の揺れが収まり避難行動開始



③ 13:54 負傷者の避難



④ 13:55 体育館に集合・人員確認

避難時間 3分19秒

(2) 防災出前授業 (大島商船 幸田准教授 浦上准教授)



◇浦上准教授より、サバイバルの考え方や地震・津波のしくみについて、スライドやDVDでわかりやすく説明していただきました。リアルな映像に、あらためて津波の恐ろしさを感じたようです。



◇幸田准教授より東日本被災地の視察の様子について、多くのスライドを交えてお話を伺いました。現地での痛々しい様子を再確認しました。



◇柳井市の土砂災害ハザードマップを使って、自分の家や避難所を確認。いざという時のための避難手段、連絡先を確認することを提案されました。

生徒の感想から

【1年】

- これからは、何かあったらすぐに落ち着いて行動しようと思います。家の人と、避難場所のことをきちんと話し合おうと思います。
- 僕は、今日の避難訓練で、ルールを守り行動することの大切さがわかりました。瀬戸内海でも5m級の津波が来ることがわかり、津波をあなどってはいけないことがわかりました。
- 家の周りや通学路の危ない所がないかなと思った。小学生の時も言われたけど、あまり意識してませんでした。でも、ビデオを見て、危ない所はないか探してみようと思います。
- もしもの時はもっとあせるし、パニックになるかもしれないので危ないです。もっと早く避難できるようにし、「お・は・し・も」を守って自分の身は自分で守れるようにし、他の人も助けたいです。

【2年】

- 津波は、一回ひいて終わりじゃないということにびっくりした。避難するときはなるべく高い所へ避難し、皆に声をかけながら一緒に逃げようと思いました。
- 私は、避難訓練をするとき、頭を守ることに気をつけました。講義では、映像を見たりとてもわかりやすかったです。去年もしたけど、大事なことなのでしっかり勉強しました。
- 南海トラフ地震に対しての考えも深まり、災害を防ぐための手段を覚えることができました。
- 今日習った3と5のキーワードをしっかりと覚えておきたいです。津波はいつ来るかわからないので、自分は何ができるかをよく考えて行動しようと思いました。このサバイバルレッスンを役立てて、家族や地域の人々を助けてあげたいです。

【3年】

- 訓練をして、あらためて気持ちが変わりました。毎年1・2回ほど話を聞いていて「またか」と思ったりするけど、ビデオに出ていた女性が「何回も聞かされていたから助かった」という話を聞いて、今きちんとしないと、いざというとき気持ちが緩んで大変なことになると思った。
- 僕は、ケガ人の付き添い役をしました。ケガ人が歩きやすいよう付き添えたのは良かったけど、もう少し速く移動できたら良かったです。地震や津波がきてもあわてないように、準備をすることが大切と思いました。
- 僕は足を負傷した役だったので、実際に地震が起きた時に、みんなの助けがあって避難できることを実感しました。今日学んだことを生かして避難したいです。
- ハザードマップはあくまでも予想なので、それにとらわれず、常にそれ以上の災害が起こると思っていきたい。今日、帰って家族と避難場所について話し合っておきたい。
- 二人の先生が丁寧に教えてくださったのでわかりやすかった。自分のことだけではなく、お年寄りの方やケガ人などにも気を配って、一人でも多くの人を助けてあげたいです。

4. 成果と今後の課題

<成果>

- 地震・津波を想定した訓練3回目となり、生徒は安全確認や移動などスムーズに行動することができた。
- 講話で、津波の仕組みや被害の様子やガレキの量など映像を使ってわかりやすく説明してくださったので、昨年以上に生徒の理解が進み、生徒はより実感をもって被災の現状をつかむことができた。
- サバイバルの観点から、3をキーワードに、いざというとき何をすべきかわかりやすく説明され、生徒が、まず何をすべきか具体的に学習することができた。
- 昨年にもまして、学年が上がる（学習が進む）につれて、自分だけでなく家族や他人にも思いをよせる生徒が増加している。

<課題>

- 東日本大震災から2年経過し、地震や津波は過去のこと、関心も薄くなっている生徒もいる。東南海地震等、これからの課題として、平素から防災を身近に考え行動できるよう、継続的な防災教育を行う。
- 生徒だけでなく、保護者や地域の方々との連携を図りながら、実践的な防災の取組に広げていく。
- 今後も、救急法など専門機関と連携し、生徒が自分の身を守るためのスキルを身に付ける機会を作る。